

Gベース選定フローチャート

下部構造物による選定
(対象ガードレール種別：B, C種)

START

下部構造物の種類は？

以下の場合、別途検討が必要となります。
 ※緩衝ゴム幅が300mm以上となる場合
 ※検討基礎長が3m製品で9m以下、2m製品で10m以下となる場合
 ※Gベース底版上に排水構造物等を設置する場合

補強土壁

L型擁壁

ブロック積み擁壁

設置位置は？

設置位置は？

下部構造物への影響は？

壁面上に載せる

壁面上に載せない

壁面上に載せる

壁面上に載せない

影響を考慮する

影響を考慮しない

補強土壁直上

補強土壁非直上

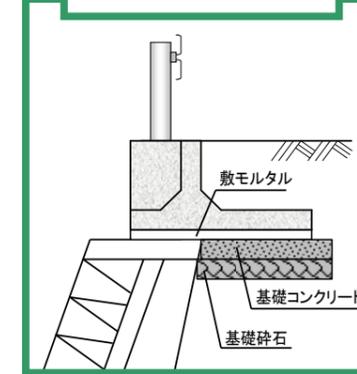
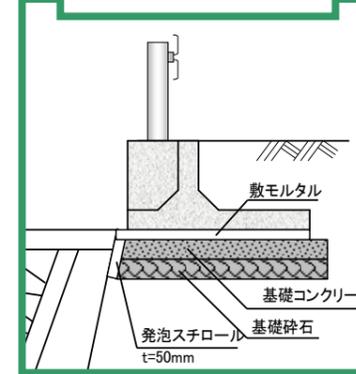
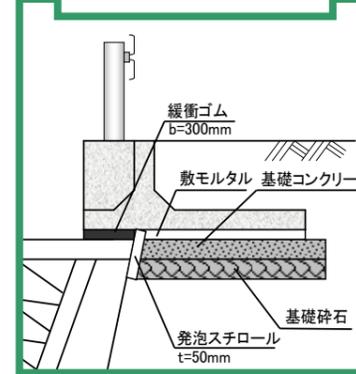
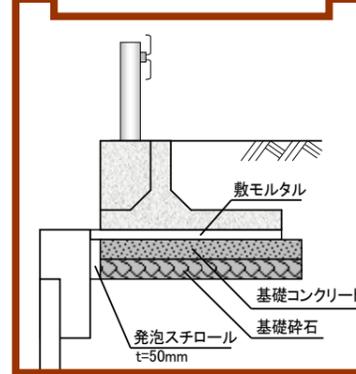
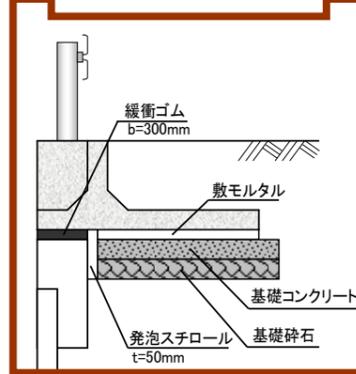
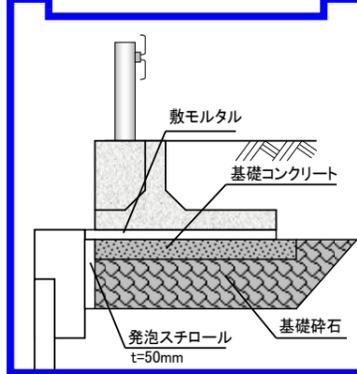
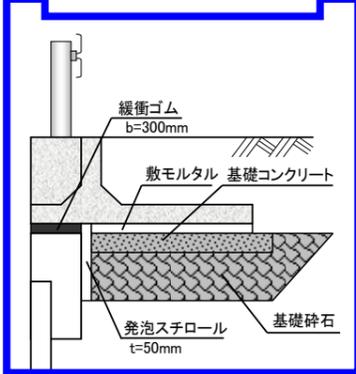
L型擁壁直上

L型擁壁非直上

擁壁直上

擁壁非直上

影響考慮しない



規格：400x1500

規格：400x1000

規格：400x1500

規格：400x1000

規格：400x1500

規格：400x1000

規格：400x1000

「道路土工-擁壁工指針」

「補強土（テールアルメ）壁工法 設計・施工マニュアル」

- ・補強土壁直上設置時は緩衝ゴムと発泡スチロールを設置。この緩衝材の摩擦抵抗は無視した底版長で検討

「多数アンカー式補強土壁工法 設計・施工マニュアル」

- ・防護柵の基礎の滑動に対する抵抗は、緩衝材の幅を考慮しないと検討する。

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長9mまたは10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上

「道路土工-擁壁工指針」

「補強土（テールアルメ）壁工法 設計・施工マニュアル」

- ・衝撃力の壁面材への影響を緩和する為に発泡スチロールを設置する。

「多数アンカー式補強土壁工法 設計・施工マニュアル」

- ・水平荷重を吸収させる為に発泡スチロールを設置する。

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長9mまたは10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上

「道路土工-擁壁工指針」

- ・基礎は擁壁と分離し、不測の外力が擁壁本体に作用しないようにする。（緩衝ゴムと発泡スチロールを設置し、この緩衝材の摩擦抵抗は無視した底版長で検討する。）

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上

※L型擁壁の底版幅については検討が必要となります。

「道路土工-擁壁工指針」

- ・基礎は擁壁と分離し、不測の外力が擁壁本体に作用しないようにする。（水平荷重を吸収させる為に発泡スチロールを設置する。）

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上

※L型擁壁の底版幅については検討が必要となります。

「道路土工-擁壁工指針」

- ・基礎は擁壁と分離し、不測の外力が擁壁本体に作用しないようにする。（緩衝ゴムと発泡スチロールを設置し、この緩衝材の摩擦抵抗は無視した底版長で検討する。）

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上

「道路土工-擁壁工指針」

- ・基礎は擁壁と分離し、不測の外力が擁壁本体に作用しないようにする。（水平荷重を吸収させる為に発泡スチロールを設置する。）

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上

「道路土工-擁壁工指針」

「車両用防護柵標準仕様・同解説」

- ・検討基礎の最大長10m
- ・滑動、転倒安全率1.5以上